

平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月4日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 日本一ソフトウェア
 コード番号 3851 URL <http://www.nippon1.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長
 四半期報告書提出予定日 平成23年2月10日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 北角浩一
 (氏名) 世古哲久
 配当支払開始予定日 未定

TEL 058-371-7275

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	1,106	△14.9	53	—	35	—	△8	△96.2
22年3月期第3四半期	1,301	△1.3	△136	—	△130	—	△231	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	△416.71	—
22年3月期第3四半期	△11,063.10	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	1,822	709	38.9	33,845.35
22年3月期	2,020	764	37.8	36,562.65

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 709百万円 22年3月期 764百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	—	—	200.00	200.00
23年3月期	—	—	—	—	—
23年3月期(予想)	—	—	—	200.00	200.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,917	△9.7	143	—	124	—	61	—	2,912.84

(注)当四半期における業績予想の修正有無 有

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年3月期3Q 21,252株 22年3月期 21,192株

② 期末自己株式数 23年3月期3Q 290株 22年3月期 290株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年3月期3Q 20,952株 22年3月期3Q 20,899株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続きは終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が本資料公表日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる過程及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、4ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. その他の情報	4
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(第3四半期連結累計期間)	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の緊急経済対策等による企業業績の改善や海外市場における需要拡大により、若干の改善傾向が見られたものの、失業率の高止まりや為替レートの変動リスクから、景気後退への懸念は依然として残り、先行きの不透明な状況が続いております。

当社が属しておりますゲーム業界におきましても、消費者の低価格志向や購買基準の厳格化等により、厳しい事業環境を迎えております。

コンシューマゲーム業界におきましては、現行の家庭用ゲーム機の需要が一段落するとともに、次世代ゲーム機の発売を見込んだ買い控え傾向が強まった結果、ソフトウェア、ハードウェアともに市場規模は縮小いたしました。

モバイルゲーム業界におきましては、iPhone4、Android OS搭載端末が相次いで発売されたことにより、スマートフォン市場が活況を迎えており、新規コンテンツをリリースする際のプラットフォームの選定が一段と重要になるとともに、ソーシャルアプリや電子書籍等、コンテンツの多様化が急速に進みました。

アミューズメント業界におきましては、家庭用ゲーム機・携帯電話等の高機能化、消費低迷等の影響により、若年層を中心に集客率が低迷する一方、メダルゲームがシニア層の関心を集めるなど、顧客層の変化が生じております。

このような状況のなかで、当社グループにおきましては、コンシューマ事業では、国内においては6タイトル、海外においては他社ライセンス商品を含む9タイトルを発売いたしました。モバイル事業におきましては、これまで運営してまいりましたアドベンチャーゲーム専用サイトを既存の総合ゲームサイトに統合し、経営資源の集中化を図るとともに、スマートフォン向けアプリケーションの開発体制の充実に注力してまいりました。アミューズメント事業におきましては、アミューズメント施設の運営等を行い、イベントの開催等による集客率の向上を図ってまいりました。その他事業におきましては、オンラインショップの運営、グッズの製作・販売等を行うとともに、イベントへの出展による認知度の向上と当社ブランド力の強化を進めてまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,106,906千円（前年同期比14.9%減）、営業利益53,122千円（前年同期は136,500千円の営業損失）、経常利益35,751千円（前年同期は130,355千円の経常損失）、四半期純損失8,730千円（前年同期比96.2%減）となりました。

セグメント別の業績は、以下の通りです。

(コンシューマ事業)

コンシューマ事業におきましては、国内外合わせ全15タイトルの発売を行いました。

国内市場においては、PlayStation Portable専用ソフトとして『セカンドノベル～彼女の夏、15分の記憶～』、『BLUE ROSES～妖精と青い瞳の戦士たち～』、『ファントム・ブレイブPORTABLE』、『クリミナルガールズ』等の6タイトルを発売いたしました。前期からの課題でありました発売タイトルの収益性の向上について、開発タイトル数の絞り込みと品質の向上に努めました結果、大半のタイトルにおいて当初計画を上回る販売本数を達成いたしました。また、当第4四半期に発売を予定しております『魔界戦記ディスガイア4』について、商品の認知度を高めるための広報施策を積極的に展開してまいりました。

海外市場においては、北米市場向けにPlayStation Portable専用ソフトとして『Z.H.P: Unlosing Ranger VS Darkdeath Evilman』（邦題：『絶対ヒーロー改造計画』）等の4タイトル、PlayStation 3専用ソフトとして『Atelier Rorona: The Alchemist of Arland』（邦題：『ロロナのアトリエ～アーランドの錬金術士～』）等の2タイトル、Wii専用ソフトとして『Viral Survival』（邦題：『peakvox escape virus』）の計7タイトルを発売いたしました。欧州市場向けには、『Cladun: This is an RPG!』（邦題：『クラシックダンジョン～扶翼の魔装陣～』）、『Prinny 2: Dawn of Operation Panties, Dood!』（邦題：『プリニー2～特攻遊戯！暁のパンツ大作戦ッス！～』）等の8タイトル（うち6タイトルは北米市場で発売したタイトルと重複。PlayStation Networkによる配信タイトルを含む）を発売し、北米市場及び欧州市場での販売展開を拡大するとともに、ダウンロード型配信タイトルの充実に努めてまいりました。

その結果、当事業における当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高997,577千円、営業利益187,325千円となりました。

(モバイル事業)

モバイル事業におきましては、アドベンチャーゲーム専用サイト「日本ーアドベンチャー」を既存の総合ゲームサイト「日本ーGAMES」へ統合し、顧客の一本化と経営資源の集中化を図りました。また、拡大するスマートフォン市場への対応として、iPhone・iPad向けに電子書籍『現代異聞 流行り神』を配信したほか、『魔界戦記ディスガイア』を題材としたスマートフォンアプリの開発体制の強化にも注力してまいりました。

その結果、当事業における当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高22,001千円、営業利益7,057千円となりました。

(アミューズメント事業)

アミューズメント事業におきましては、アミューズメント施設の運営を中心に事業を展開してまいりました。具体的には、アミューズメント施設2店舗の運営を行ったほか、地域の催事への出展や集客率向上のための広告配布等を展開し、当社の認知度の向上を図ってまいりました。

その結果、当事業における当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高31,390千円、営業損失6,547千円となりました。

(その他事業)

その他事業におきましては、国内外におけるオンラインショップの運営、グッズ販売等を行ってまいりました。国内市場においては、『魔界戦記ディスガイア』シリーズをはじめとする当社ライセンス商品に関連したグッズの製作・販売を行うとともに、「秋葉原電気外祭り」、「コミックマーケット79」への出展等のイベント参加を積極的に行なってまいりました。海外市場においては、アニメ『PandoraHearts』、『Our Home's Fox Deity』(邦題:『我が家のお稲荷さま。』)等の4タイトルについてDVDのリリースを行い、ゲーム販売に並ぶ新たな収益源の確立に努めてまいりました。

その結果、当事業における当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高55,936千円、営業利益4,865千円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は1,822,983千円となり、前連結会計年度末に比べ197,361千円の減少となりました。

主な流動資産の増減は、現金及び預金の増加(前連結会計年度末に比べ14,353千円の増加)、受取手形及び売掛金の減少(前連結会計年度末に比べ、365,048千円の減少)、仕掛品の増加(前連結会計年度末に比べ145,570千円の増加)等によるものであります。

主な固定資産の増減は、投資有価証券の増加(前連結会計年度末に比べ30,163千円の増加)等によるものであります。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末における負債は1,113,517千円となり、前連結会計年度末に比べ142,594千円の減少となりました。

主な流動負債の増減は、買掛金の減少(前連結会計年度末に比べ81,260千円の減少)等によるものであります。

主な固定負債の増減は、長期借入金の減少(前連結会計年度末に比べ60,173千円の減少)等によるものであります。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は709,466千円となり、前連結会計年度末に比べ54,766千円の減少となりました。

主な純資産の増減は、利益剰余金の減少等によるものであります。

キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は540,446千円となり、前連結会計年度末に比べ14,353千円の増加となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は157,101千円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益10,137千円、売上債権の減少額354,692千円、たな卸資産の増加額158,822千円、仕入債務の減少額72,881千円、法人税等の支払額14,271千円等があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は62,379千円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出11,834千円、投資有価証券の取得による支出115,944千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は52,653千円となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出60,173千円等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の見通しにつきましては、当第3四半期の進捗状況及び第4四半期発売予定タイトルの受注状況等を勘案し、通期の業績予想を修正しております。詳細につきましては、平成23年2月4日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。。

2. その他の情報

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

1. 簡便な会計処理

定率法を採用している固定資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

2. 特有の会計処理の概要

税金費用については、海外連結子会社については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

資産除去債務に関する会計基準の適用

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

なお、この変更に伴う損益に与える影響はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	540,446	526,092
受取手形及び売掛金	95,255	460,304
商品及び製品	17,849	28,072
仕掛品	229,139	83,568
繰延税金資産	36,996	42,240
その他	56,644	24,268
流動資産合計	976,332	1,164,546
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	373,598	390,246
機械装置及び運搬具(純額)	2,025	3,247
土地	172,746	172,746
その他(純額)	40,597	43,202
有形固定資産合計	588,967	609,443
無形固定資産		
のれん	6,801	20,770
その他	17,504	23,689
無形固定資産合計	24,306	44,459
投資その他の資産		
投資有価証券	206,627	176,463
その他	26,751	43,231
貸倒引当金	-	17,800
投資その他の資産合計	233,378	201,894
固定資産合計	846,651	855,797
資産合計	1,822,983	2,020,344

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	50,919	132,180
短期借入金	599,600	590,000
1年内返済予定の長期借入金	40,008	40,008
未払金	73,064	64,639
未払法人税等	23,053	18,197
賞与引当金	22,528	26,770
売上値引引当金	61,292	84,912
その他	41,335	39,595
流動負債合計	911,801	996,305
固定負債		
長期借入金	193,251	253,424
退職給付引当金	8,176	5,701
その他	289	681
固定負債合計	201,716	259,806
負債合計	1,113,517	1,256,112
純資産の部		
株主資本		
資本金	241,910	240,860
資本剰余金	231,910	230,860
利益剰余金	354,716	367,615
自己株式	16,870	16,870
株主資本合計	811,665	822,464
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8,451	4,099
為替換算調整勘定	93,747	54,132
評価・換算差額等合計	102,199	58,231
純資産合計	709,466	764,232
負債純資産合計	1,822,983	2,020,344

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	1,301,193	1,106,906
売上原価	862,609	510,306
売上総利益	438,584	596,599
販売費及び一般管理費	575,084	543,477
営業利益又は営業損失()	136,500	53,122
営業外収益		
受取利息	3,051	1,546
受取配当金	1,053	2,632
有価証券売却益	-	67
為替差益	8,374	-
その他	2,955	2,836
営業外収益合計	15,435	7,082
営業外費用		
支払利息	7,442	6,583
為替差損	-	17,509
その他	1,847	360
営業外費用合計	9,289	24,454
経常利益又は経常損失()	130,355	35,751
特別利益		
債務免除益	-	3,990
特別利益合計	-	3,990
特別損失		
投資有価証券評価損	4,842	-
減損損失	-	8,480
開発中止損失	80,242	21,122
特別損失合計	85,084	29,603
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	215,440	10,137
法人税等	15,773	18,868
少数株主損益調整前四半期純損失()	-	8,730
四半期純損失()	231,213	8,730

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	215,440	10,137
減価償却費	53,502	39,123
減損損失	-	8,480
のれん償却額	5,193	7,251
債務免除益	-	3,990
開発中止損失	80,242	21,122
賞与引当金の増減額(は減少)	1,154	3,372
売上値引引当金の増減額(は減少)	3,151	13,941
退職給付引当金の増減額(は減少)	1,501	2,474
受取利息及び受取配当金	4,105	4,179
支払利息	7,442	6,583
為替差損益(は益)	6,588	1,095
投資有価証券評価損益(は益)	4,842	-
投資有価証券売却損益(は益)	-	67
売上債権の増減額(は増加)	338,125	354,692
たな卸資産の増減額(は増加)	118,858	158,822
仕入債務の増減額(は減少)	58,670	72,881
その他	31,731	16,985
小計	120,916	174,532
利息及び配当金の受取額	4,493	3,349
利息の支払額	7,718	6,508
法人税等の支払額	26,552	14,271
営業活動によるキャッシュ・フロー	91,138	157,101
投資活動によるキャッシュ・フロー		
出資金の払込による支出	-	200
有形固定資産の取得による支出	23,210	11,834
有形固定資産の売却による収入	-	130
無形固定資産の取得による支出	10,435	3,085
投資有価証券の取得による支出	131,915	115,944
投資有価証券の売却による収入	64,486	70,581
その他	5,793	2,028
投資活動によるキャッシュ・フロー	106,868	62,379
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	85,000	9,600
長期借入金の返済による支出	29,173	60,173
株式の発行による収入	50	2,100
配当金の支払額	4,179	4,180
財務活動によるキャッシュ・フロー	51,697	52,653
現金及び現金同等物に係る換算差額	21,570	27,714
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	14,397	14,353
現金及び現金同等物の期首残高	472,801	526,092
現金及び現金同等物の四半期末残高	487,199	540,446

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

	コンシューマ事業 (千円)	モバイル事業 (千円)	アミューズメント事業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	1,204,591	33,187	34,430	28,984	1,301,193		1,301,193
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高							
計	1,204,591	33,187	34,430	28,984	1,301,193		1,301,193
営業利益又は営業損失()	4,806	3,424	17,853	14,858	5,237	(141,737)	136,500

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、製品の系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

2. 各区分に属する主要な製品

事業区分	主要製品
コンシューマ事業	PlayStation専用ゲームソフト、PlayStation 2専用ゲームソフト、PlayStation Portable専用ゲームソフト、PlayStation 3専用ゲームソフト、ニンテンドーDS専用ゲームソフト、Wii専用ゲームソフト
モバイル事業	携帯電話用コンテンツ
アミューズメント事業	業務用アーケードゲーム機器、アミューズメント施設運営
その他事業	関連グッズ、関連攻略本

〔所在地別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

	日本(千円)	北米(千円)	計(千円)	消去又は全社 (千円)	連結(千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	759,306	541,887	1,301,193		1,301,193
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	49,050	1,608	50,659	(50,659)	
計	808,356	543,496	1,351,853	(50,659)	1,301,193
営業利益又は営業損失()	27,628	32,866	5,237	(141,737)	136,500

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

北米・・・米国

〔海外売上高〕

前第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

	北米	欧州	計
海外売上高（千円）	431,669	110,217	541,887
連結売上高（千円）			1,301,193
連結売上高に占める海外売上高の割合（％）	33.2	8.5	41.6

（注）1．国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2．本邦以外の区分に属する主な国又は地域

北米・・・米国

欧州・・・イギリス、フランス

3．海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

〔セグメント情報〕

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、コンシューマ事業、モバイル事業、アミューズメント事業、その他事業を営んでおり、取り扱う製品・サービスによって、当社及び当社の連結子会社を設置し、国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、製品・サービスを基礎とした事業別のセグメントから構成されており、「コンシューマ事業」、「モバイル事業」、「アミューズメント事業」及び「その他事業」の4つを報告セグメントとしております。なお、各報告セグメントに含まれる主要品目は、以下のとおりであります。

事業区分	主要製品
コンシューマ事業	PlayStation専用ゲームソフト、PlayStation2専用ゲームソフト、PlayStationPortable専用ゲームソフト、PlayStation3専用ゲームソフト、ニンテンドーDS専用ゲームソフト、Wii専用ゲームソフト
モバイル事業	携帯電話用コンテンツ
アミューズメント事業	業務用アーケードゲーム機器、アミューズメント施設運営
その他事業	関連グッズ、関連攻略本

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年12月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	コンシューマ事業	モバイル事業	アミューズメント事業	その他事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	997,577	22,001	31,390	55,936	1,106,906	-	1,106,906
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	997,577	22,001	31,390	55,936	1,106,906	-	1,106,906
セグメント利益又はセグメント損失()	187,325	7,057	6,547	4,865	192,700	(139,577)	53,122

(注) 1. セグメント利益の調整額139,577千円は当社管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年12月31日）

(固定資産に係る重要な減損損失)

「コンシューマ事業」セグメントにおいて、子会社である株式会社システムプリズマの事業計画について見直しを行ったことによる固定資産の当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、1,763千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「コンシューマ事業」セグメントにおいて、子会社である株式会社システムプリズマの事業計画について見直しを行ったことによるのれんの当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該事象によるのれんの減少額は、当第3四半期連結累計期間においては、6,717千円であります。

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。